

福祉基金運営委員会（一九七五年～）

一九七〇年代の山本病院は、土曜日は半ドンで、勤務は午後二時まででしたから、その後、みんなでそろってソフトボールをやったり、山へ遊びに行ったりして楽しく過すとともに、ボランティア活動も非常に活発にやっていました。

例えば、土曜日の午後、二～三人ずつチームになって、ひとり暮らし老人のお見舞いに行ったり、障害者のワークキャンプや旅行に参加したり、市立老人ホームへは毎月一回お見舞いに行き、夏には、ひとり暮らし老人宅の大掃除にも出かけました。

そうこうしているうちに、職員からお年寄りのお宅を訪問するにも、市立老人ホームへのお見舞いにあがる時にも、はたまた、障害者のワークキャンプにも、手ぶらで行くよりは、おみやげを持って行ったほうが、もっと喜ばれるのではという意見が出され、更に、奉仕活動にも資金が必要だから、みんなが毎月の給料の百円以下の端数を寄付してこれにあてようという意見が、職員から出されました。

でも、自分の収入は一円だって減らされるのは嫌だと強硬に反対する人も一部にいました、すぐには決まりませんでした。が、数ヵ月たつうちに、全員が百円以下の端数を寄付するのに賛成となりましたので、福祉基金運営委員会が、一九七五年四月一日に設立されました。

一九八〇年に、私達が最も尊敬するマザーテレサの生涯を描いた映画が、日本の女子パウロ会に届いたという情報が入りましたので、ぜひこの映画を豊橋の皆さんに見ていただきたいと考え、女子パウロ会に交渉をし、その了解が得られましたので、三月二十三日（日）に、福祉基金運営委員会の主催で、八町の豊橋福祉センター講堂で、マザーテレサの映画の上映と彼女の本の直売会を行いました。

映画を見て感動された人々が、ぜひマザーテレサに寄付をしたいとの申し出がありましたので、寄付金をとりまとめて、女子パウロ会を通してインドのマザーテレサにお届けしました。

その後も、この基金は職員の奉仕活動に積極的に活用されましたし、神戸、トルコ、そして、新潟などの大震災の時や、社協の共同募金などにも、大きな貢献を続けております。